

ポーチュラカ マルガリータ・シリーズ/テキーラ・シリーズ 夏場の造園用品種の主役 アップライトとフラットの2タイプのポーチュラカ

- 早い時期の短日時に播種する場合は、**テキーラ™**・シリーズがいくぶん日長に影響されにくい性質を示し、開花も1週ほど早く上がってきます
- **テキーラ™**は、全色を通じて日長への反応に差がほとんど見られないシリーズです
- 大輪、這性のスプレディング品種、**テキーラ™**・シリーズはガーデンですばらしさを発揮するポーチュラカです
- **マルガリータ・シリーズ**は、枝が上方向に育ち、販売する頃はポットの上に形よい草姿に仕立てることができるコンパクトな品種によるシリーズです
- 両シリーズとも、冴えた花壇パフォーマンスが見られます
- 両シリーズとも、全色を通じて花数が豊富で、揃って早生開花するポーチュラカです
- マルガリータ、**テキーラ™**・シリーズとも、マルチペレット種子と普通種子の両方をご利用いただけます

本品種の学名: *P. grandiflora* (Moss Rose)
種子粒数: 500粒(ペレット単位)/グラム

プラグ生産ステージ

培地

水はけがよく、新しく衛生的な培地を用いる。pH5.8-6.2、EC値*を0.75mmhos/cm(1:2)とする。ポーチュラカは発芽の段階では、高レベルの塩類、とくにアンモニア態に影響を受けやすいので注意が必要

播種

テキーラ™、**マルガリータ**の両シリーズでは、マルチペレット種子と普通播種の両方をご利用いただけます。マルチペレットの場合、だいたい2から4本出芽します。発芽時には覆土はしない。発芽にはだいたい2、3日要する

温度

発芽温度:	24から27℃
子葉展開後:	22から24℃
本葉展開後:	20から22℃
育苗後期:	18から20℃

光条件(照度)

ステージ1:

100ルクス(10f.c.)程度でも十分発芽するが、高い光がある方が発芽には効果がある

発芽後: 10,000から30,000ルクス(100から2,500f.c.)

プラグ苗成熟期:

54,000ルクス(5,000f.c.)を上限として、高ければ高いほど強くしっかりした苗に仕上がる

日長管理

ポーチュラカは、短日の影響を受けやすい植物で、その影響はプラグ苗の段階から現れる。**マルガリータ**では日長が11時間、**テキーラ™**の場合は10時間15分の日長に満たない条件では、株がロゼットに入る可能性が高い。一度ロゼットに入ると、開花が極端に遅れるか、あるいはまったく開花しない状態になるので十分な注意が必要。

株をロゼットさせないように管理するには、播種時期の日長が**マルガリータ**では11時間、**テキーラ™**では10時間15分以上であることを確認する。これに満たない条件で早播きを行う場合は、育苗時には補光が必要となる(明期延長で12から13時間)

培地の水分

発芽時は、ペレットをしっかりと融解するため十分な水分を必要とする。初期段階では培地に満遍なく水分を含ませることが必要だが、極度に過湿になることは避け、幼根が育ち培地を行き渡り始めたら、水分レベルを中くらいに落とす。発芽後は、良好な発根を促すため、培地はいくぶんドライに維持する

ポーチュラカは、温度と照度が高く、乾燥した条件を好む植物である。良好な根が作り出されるようにこれらの条件を得ることが必要である

かん水は朝の早い時間に行い、防疫の観点からも、夕方には葉に水が残らないようにします。過湿な管理は、(*Rhizoctonia*による)立枯れ病等を惹き大きな起こす原因となるので注意が必要

肥料

子葉が展開してから、リン成分の低い肥料を50ppm(N)与える。本葉が展開し始めたら、濃度を100から150ppm(N)に上げる。またこの時期はアンモニアを低く(10ppm未満)抑えることが大切

矮化処理剤

矮化剤は不要

ポット上げから出荷まで

用土

水はけがよく、新しく衛生的なピーと主体の用土を用いる。pH5.5から6.2、用土の初期養分量は中庸とする

温 度

昼間: 20 から 24℃

夜間: 18 から 20℃

温度が低すぎると、花芽が分化しなかったり、あるいは開花しないことがある

光条件(照度)

上記の生育適温が維持されるのであれば、照度はできるだけ高くする。照度が低いと、開花生理が働かないことがある

日長管理

マルガリータ・シリーズ:

プラグ購入の場合は、3 月下旬以後の移植であれば、特別な長日処理をしなくても、自然な日長条件のもとで苗が生育するでしょう。この時期よりも早く苗を移植する場合は、上記の「プラグ生産ステージ」の「日長管理」の項で記したように明期を人為的に作るが必要となる

移植時期の日長が 11 時間を下回るような場合は(北緯 35 度ではだいたい 2 月の第 4 週以前)、移植後、人為的に日長を長くする必要があるので、日長は 12 から 13 時間の明期延長とする。また、プラグ生産も正しい日長条件の中で生産されることを、上記の「プラグ生産ステージ」の「日長管理」にて再度確認しましょう

テキーラ™・シリーズ:

テキーラ™・シリーズは日長の限界が 10 時間 15 分なので、それより長ければロゼットの問題は起こらない

かん水

過湿にならないように、培地は全体的にドライ状態を保つ。根が十分に張ってからは、ポーチュラカは強い植物で、少し枯れそうなくらいまで乾かしても株は立ち直る

肥 料

かん水と交互に、15-0-15 あるいは 20-10-20 を 150-200ppm(N)の濃度で与える

矮化処理剤

矮化剤は不要。草丈を調整したい場合は、水をやりすぎずにドライに管理することで抑えることが可能。または、リンやアンモニア態窒素を含む肥料の使用を控えることでも草丈の調整は可能である

栽培のスケジュール

播種から移植(400 穴プラグトレイ): 4-5 週

ポーチュラカは、低温と低日照の影響を受けやすい植物である。これらの条件が整わない場合は、下記に示した生育期間よりも長くかかることがあるので注意が必要

コンテナサイズ	コンテナあたりのプラグ数 [§]	移植後の到花週数
606 フラット	36 本	5 週
9 から 10.5cm ポット	1 本	5 から 6 週

[§]: プラグはマルチペレット種子からの生育によるもの。各マルチペレットからは、通常 2 から 4 本の芽が出る

予想される病気や害虫

害虫: クモ、ダニ類、スリップスなど

病気: *Rhizoctonia*, *Pythium* による立枯病や根腐れ病等

定植時、定植後のポイント

- 植え付けは、日あたりのよい場所に、降霜去った後に行いましょう
- 定植間隔(株間)は、水はけを考慮して 25 から 30cm とりましょう
- この植物は夜間、花が閉じます
- テキーラ™・シリーズは、従来の這性ポーチュラカと比べると、低温や湿気にやや強いことが北アメリカの試作結果から証明されています

EC 値(電気伝導度)は、ピート主体の北米の用土を算出の基準としているので、土を用いた配合では適合し得ない場合があります。

PanAmerican Seed

PanAmerican Seed Co.
622 Town Road, West Chicago, Illinois, USA 60185-2698
630 231-1400 Fax: 630 231-3609 PanAmSeed.com

[®]および[™]は、Ball Horticultural Company のアメリカ合衆国、またその他国における登録商標です。

©2004 Ball Horticultural Company Japanese translation version
Originally printed in USA PAS05054